

令和2年度 生命医科学域セミナーⅡ

演題：悪性腫瘍の分子病理と

precision medicineへの展開

演者：齋藤 剛 先生

順天堂大学医学部 人体病理病態学講座
准教授

日時：令和2年11月24日（火）16時～17時

会場：健康医科学イノベーション棟8階講堂

要旨：

悪性腫瘍は、様々な遺伝子異常の蓄積や融合遺伝子の形成によって起こり、そのようなgenotypeの違いは、同一疾患として分類されている腫瘍の中でも、病理組織学的な違いや患者予後、治療効果を含むphenotypeの違いとして現れます。

本講演では、まず、SS18-SSX1/SS18-SSX2融合遺伝子を有する滑膜肉腫におけるSS18-SSX1/SS18-SSX2遺伝子産物のSnail/Slugとのタンパク複合体形成を介したE-cadherin転写抑制機構による上皮分化機構のモデルをはじめ、いくつかの悪性腫瘍におけるgenotype-pgenotype correlationのお話をさせていただきます。

また現在、治療方針の決定におけるコンパニオン診断薬の評価など、病理医も分子標的治療薬の適応症例の選別にも積極的に関わっていますが、今後奏功性を示す可能性のある症例を適切に選別・拡大していく必要もあります。現在行っている、TMAを用いた免疫染色とnanosttringを用いた遺伝子発現の不均衡の解析を組み合わせた、NTRK fusionを始めとするRTK fusionを有する腫瘍などを効率的に同定する試みについてもお話させていただきます。

連絡先：生命医科学域長室 高橋 智
satoruta@md.tsukuba.ac.jp